

## 式 辞

やわらかな春の日差しの中、巣立ちの時を迎えた、二十九名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

今、一人一人に卒業証書を、確かに手渡しました。その姿を会場の皆さんも、しっかりと見届けてくれました。「当たり前だ」と思えるそれは、決して当たり前前のことではありませんでした。

皆さんが入学する直前の令和二年三月、全国の学校が突然に休校になりました。皆さんは六月二日に入学式を迎え、タブレット端末を使い始め、合い言葉の「あそべえ」に「笑顔」が加わった時の、伝説の小年生でした。

私が皆さんと過ごし時間は、僅か一年間でした。しかし、とても印象深い一年間でした。

出会った頃の皆さんは、とても落ち着いていて、

大人びた六年生でした。

ところが、東京方面への校外学習で、その印象が一変しました。「とにかくカラオケが上手」でした。よく考えてみれば、音楽部の皆さんをはじめ、心豊かな歌声で、十分に「歌手」の素質がありました。その才能は、音楽集会などでも発揮してくれました。

下校の時の、椿先生との掛け合い漫才の様子からも、皆さんの明るさと、賢さが感じられました。

感動的な運動会も忘れられません、私が、一番に驚いたのは、修学旅行です。

「NHKの突然の取材にも、笑顔で応じる余裕……」  
皆さんは、北小の自慢の六年生でした。

「修学旅行の最後に、褒めてあげよう。」  
そう決めていたら、逆に、

「いつも私たちに期待してくれて、有り難うございま

す。」

そんなお礼を言われて、改めて見直しました。

皆さんは、「自分たちが評価されている」ということに気付いていて、「常に高いレベルを目指す」という、向上心を持ち続けていました。

そして、今日、卒業の時です。

「六年生に卒業しないでほしい。」

「もう少し、皆さんの笑顔を見ていたい。」

そんな思いを感じている在校生や、先生方も多いでしょう。私も同じです。明日の朝七時半頃に、正門で皆さんの挨拶と笑顔を見られずに、卒業を実感して、寂しさを痛感する……そんな自分が想像できます。

それでも、卒業生の皆さんは、力強く、旅立っていただく。四月からの生活は、今まで以上に魅力的で、明るい未来が広がっています。楽しみですね。

皆さんの活躍に、益々、期待させてください。

いってらっしゃい！

保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。また、長きにわたり、本校の教育活動に対して、ご理解とご協力をいただきましたことを、心より感謝申し上げます。

子どもたちは、小学校六年間を通して、立派に成長しました。次のステップに向かいます。

それでも、まだまだ、力添えが必要です。

これまで同様の温かいご支援をお願い致します。

最後になりましたが、ご来賓の皆様におかれましては、公私ともにご多用の中、ご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。今後とも、卒業生および本校に対して、ご支援をいただきますようお願い申し上げますとともに、卒業生二十九名の輝く未来と、ご臨席の皆様方のご多幸を祈念し、式辞といたします。



令和八年 三月十八日

印西市立小林北小学校

校長

岡本

晃郎